



### 3 淡煙 中村不折

明治三十一年（一八九八） 油彩・カンヴァス  
八四・五×一三二・九

本図は明治三十二年の明治美術会第十回展に「黄葉村」とともに出品された。フランス留学時に習熟した人体デッサンにもとづく歴史画や、のちの書家としての活躍が取り上げられる中村不折であるが、留学以前のこの時期は小山正太郎の主宰する不同舎に学び、風景画を描いていた。不折のよき理解者であった正岡子規の「墨汁一滴」（新聞「日本」、明治三十四年六月二十八日）によると、本図は渋川よりのぞむ初夏の緑に彩られた赤城山の眺望で、一度描き上げたものを、浅井忠の指摘を受けて描き直されたと伝えられる。

手前に描かれた渋川の農村では、農作業に従事する人々が点景として描かれ、家々からは炊事の煙が立ち上り、遠くの間々を霞ませている。不折が学んだ不同舎は、「道路山水」と呼ばれるスケッチを特色としていた。道路山水とは、画面中央に道路や橋などを脇に樹木や家屋を透視図法によって配した、鉛筆と淡彩による風景スケッチである。それらは本図のような雄大な風景画とはおもむきが異なるものであるが、明治二十年代に主宰者の小山がパノラマ画制作にも積極的にならずさわっていたことや、不折も不同舎で指導をしていた浅井忠の助手としてパノラマ画制作に加わっていたとみられることから、本図の近景から中景にかけての俯瞰的な構図や、霞がかかったように見える空気遠近法的な遠景描写に、その影響を指摘することもできるだろう。画面左下に「中村不折（雅号である孔固亭からとった、○に亭の象形文字による描印）／戊戌初夏画之」と、右から左へと書かれたサインと制作時期が記される。

中村不折（一八六六―一九四三）は江戸に生まれ、幼時に母方の郷里である長野へ移った。小学校の図画教師をつとめたのち、明治二十一年に上京して不同舎に入門。同三十四年から三十八年にかけてフランスへ留学、アカデミー・ジュリアンでジャン＝ポール・ローランズに師事した。帰国後は太平洋画会を活動拠点に据え文展、帝展への出品をつづげる一方、六朝書を研究して独自の書法を生み出し、書壇でも活躍した。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に<sup>1</sup>出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 近代の洋画家、創作の眼差し

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 52

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年十月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections